

住化・住武相談室だより

第19号 7月10日

発行 住友化学・住化武田農薬

お客様相談室 0570-058-669

発行責任者 古津 昇

i-農カサイト <http://www.i-nouryoku.com/index.html>

目次

農家さん訪問記	p.1
やさしい農薬の知識(No.11)	p.4
小沼さんが語る「農薬のあゆみ」発刊の思い出	p.5
住化アグログループ紹介「日本エコアグロ(株)」	p.6
大家さんで行く「大田市場見聞録」	p.7
今月のお勧め農薬「稲の倒伏軽減剤ロミカ粒剤」	p.8
農薬あれこれ?なぜなに?コーナー	p.9
今月の相談内容から	p.10
知って得する防除の仕方	p.10
病害虫発生情報	p.11
農薬登録情報	p.12
最近の「お・・美味しい!」	p.13
コラム・そば談義	p.14
編集後記	p.14



「ハクサンイチゲ(キンポウゲ科)と
イワヒバリ(イワヒバリ科)」
技術顧問 富樫 作

農家さん訪問記

今回は、静岡県袋井市でお茶の栽培と、製茶・販売をされている「荻原製茶」の荻原克夫さんにお話を伺いました。荻原さんは静岡県農業経営士で、知事認定茶・みかんエコ・ファーマーでもあり、日本茶インストラクターでもいらっしゃいます。

これからは人を売る時代と荻原さん!

お茶栽培農家 荻原 克夫 様

歴史あるお茶栽培の地

いまだ梅雨の明けない時期にもかかわらず、訪れた当日はとても気持ちよく晴れ渡り、一面見渡す茶畑の緑色がとても目に鮮やかな光景でした。

静岡県といえば、言わずと知れた有名なお茶どころ。その歴史も古く、有名な牧の原台地での栽培は江戸時代幕末～明治にかけて始まったそうです。また、お話を伺った荻原製茶さんのある袋井市笠原地区あたりでの栽培の歴史はさらに古く、江戸時代中



期 1700 年代に遡るとのことです。この辺りは、大井川の礫層地帯で砂礫土であり、水はけが良すぎるために、稲作ではなく、畑作が行われていたそうで、水はけが良いことが条件の「お茶」もそんな中で作り始められたのだそうです。このようなお茶栽培に適した土地で、荻原さんのお宅は、明治 18 年からお茶栽培を始めたとのことですから、その歴史も並々ならぬものが窺えます。

栽培で困っていることは？

現在、荻原さんの茶園は 4.5 ヘクタール。この茶園でできた生葉と、40～80 名の農家さんより買っている買葉を合わせて年間約 700 トンもの製茶を行っています。

なかでも最高のやぶきた茶を丹精こめて製造した深蒸し茶がこちらでの主な取り扱いとなっています。荻原さんご自身でも栽培されていることから、栽培に関しての悩みを伺いました。そうしたところ「今、困っているのは髪の毛の被害。この病気は菌糸が強く、いろいろな薬剤



も試したが、なかなか効かないのでどうにか対策をしなければと思っている」とのことでした。(この「髪の毛」を調べてみると、研究機関においてさまざまな研究がなされていますが、今のところ効果のある薬剤はなく、見つけ次第部分的に除去して焼却するしかないやっかいな病気で、製茶しても最後まで菌糸が残るためクレームの原因となります。)

お茶業界の状況を教えてください



さらにここで、お茶をめぐる現状をお聞きしました。現在、お茶の業界では「バブル期が終わって転換期を迎えている」状態とのこと。具体的には、「以前は、お茶の葉が出来たら、(売れるか売れないかの見込みを考えないで)すべて製茶して、値段の高い安いは別にして、販売すれば全て売れたのですが、昨年あたりから、いわゆる「売れ残り」が出てくるようになってしまった」ということだそうです。「良いお茶をつくれれば売れる」という時代ではなくなり、「お客様に支持されるお茶がよいお茶である」という意識に変わってきました。従来のようにお茶専門店でお茶を買うだけでなく、スーパーマーケットでも入手できるといったように販売形態も多様化したことなど、この業界もいろいろな面で転換期を迎えています。

今後の展望について



このような業界の転換期を迎えて、生き残っていくためにはどうすればよいのか？荻原さんはこの問題を真剣に考えておいででした。

まず、規模拡大をしてつくれば売れる時代ではなくなったということを前提にした上で、「お茶は単なる飲み物ということではなく、長く続いた文化であることを念頭に、お茶をつくり販売をしていきたい」とのことです。

「お茶は文化」。本当にそのとおりだと思います。荻原さん曰く「お茶をいれるまでの全体、

例えば器を選んだり、急須にこだわったり、自分好みの茶葉を探してみたり・・・こういったすべてが、お茶に関わる文化。このような文化の伝道師になりたいし、お茶のいろいろなシーンを提案していきたい」とのことです。また、「モノを売る時代から、作り手の考え方を売る時代になったと思う。これからは、『あの人が作ったお茶なら間違いない』と、お茶を通して自分を買ってくれるようなお茶づくりをし、お茶に対する自分の考えも理解してもらえようような努力をしたい」とも。そして、こうしてできたお客様とのつながりも大事にしていきたい。とのことでした。また、荻原家のお茶作りは明治18年よりずっと続いた伝統のお茶づくり。戦中、戦後など時代の混乱期にあっても、苦勞しながら、たゆまずにお茶づくりを続けてきた先祖や育ててくれた大地に感謝したいし、伝統も大事にしたいとのことでした。

最後に

今回、お話を伺っている最中にも、荻原さんご自身でおいしいお茶をいれてくださいました。清々しく甘味のある深い味わいでした。また、同じ茶葉でも温度によって味が変わることも教えてくださいました。これには「こうも変わるものなのか！」とお茶の奥深さに感銘を受けました。

日頃忙しい毎日であっても、これからは、ゆっくりお茶をいただく時間を持ちたいものだなあ・・・と思い、夏空の袋井市を後にしたのでした。

(佐伯)

今回の訪問に際して、豊田肥料(株)様より荻原様をご紹介いただいたことを、深く御礼申し上げます。



[目次へ戻る](#)

やさしい農薬の知識 (No.11)

[自転車の女性に農薬が掛ったというが・・・?]

販売店の方から、農薬を買ったお客が困っているのので相談したいとの連絡があった。

「お客様が庭木に農薬を散布している時、家の前を自転車に乗った女性が通り、家に帰ってから気持ちが悪くなり病院に行っただけです。その女性のお父さんが、お客様のところに文句を言いに来たそうで、お客様からどうしたらいいかと相談がありました」と販売店の方。「うーん。状況から考えて農薬の中毒は全く考えられません。」「お客様がその女性のお父さんに上手く説明できるように、何か考えてくれませんか」「わかりました。大事なお客様ですし、どう説明したらよいか考えてみます。ところで、もう少し詳しい状況を調べて教えてください」とお願いして一旦電話を切った。



相手に十分納得のいく説明をするためには、まず詳しい情報が大事なのだ。その女性には直接散布液がかかったのか、農薬は正しく希釈されていたか、風はどの程度だったか、散布していた場所とその女性の距離はどのくらいか、庭の広さはどの程度か、その女性のその後様子など。程なく、販売店の担当者から連絡があった。そのお客は、いつものように1000倍で希釈して散布し、自転車の女性に誤ってかかったわけではなく、その女性は、病院から戻ったあとは不調を訴えていないとのことだった。

その担当者の話から、その女性のお父さんに説明する内容を考えた。

- ・1000倍に薄めているので、有効成分の濃度は0.05%。この薬剤の毒性の強さから考えて、散布液1リッター程度を摂取したとしても農薬による中毒症状が現れることは考えにくい。
- ・散布した農薬が落下せずすべて空中に漂うとして(実際にはほとんどが地上に落下するが)試算すると、空気1リッターあたりの有効成分量は0.05 mgとなる。
- ・その庭の横を自転車で通過する時間を数秒として、二呼吸程度。呼吸量で約1リッターなので、散布場所だと摂取量は0.05 mg程度となる。
- ・この量は、一日摂取許容量の5分の1になる。一日摂取許容量とは、その農薬を人が一生にわたり毎日摂取しても何ら健康に悪影響がないとされる量である。
- ・さらに、農薬がその女性に直接かかったのではなく、かすかに漂う状況では、実際の摂取量はそれよりはるかに少ない量となる。
- ・農薬によってはわずかに独特の臭いがするものがあり、臭いに非常に敏感な人では気持ちが悪くなることも考えられる。しかし、摂取した農薬によって毒性影響が現れることは考えられない。

以上のことを簡単にまとめた資料を販売店の方に送付して、そのお客に説明するようお願いした。どうも、その女性のお父さんには納得頂けたようだ。

農薬はラベルに従って正しく使用すれば安全に使用できる資材だ。一方、今回のように臭いに敏感に反応して気分が悪くなることも考えられる。農薬を庭で使用する時でも、隣家の方にはしばらく窓を開けないように声をかけるとか、通行人に気が付けば手を止めるなどの気配りも必要だ。

(原)

[目次へ戻る](#)

小沼さんが語る「農薬のあゆみ」発刊の思い出

はじめに

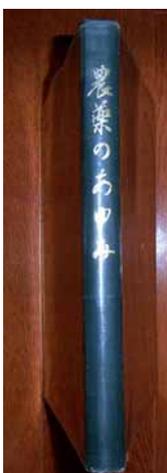
小沼さんは、農林省時代の昭和35年『農薬のあゆみ』の発刊に多大の尽力をされ、お陰で今の農薬関連の統計資料が整備されたと云っても過言ではありません。

昭和26年に農林省が植物防疫課を新設し、本書はその10周年の記念事業として、総数500冊限定で出版されました。これは、現在の『農薬要覧』[農水省監修]の原型となるものです。内容は農薬の生産・出荷・輸入・輸出・流通・消費などの農薬に関する統計資料が中心となっています。



『農薬のあゆみ』(写真)の目次を見

ると、1章の総論で明治・大正・昭和の戦前と戦後に分けて農薬の歴史があり、2章では当時の農薬会社の実態や所在地が手書きの日本地図に示され、9章では主要な農薬会社の経営分析まで記載されていることに大きな驚きを感じます。また、付録・農薬の行政史には、昭和22年の農薬の配給割当制実施や昭和23年の農薬取締法の制定、同年肥料配給公団に農薬を備蓄した記録などが詳細に説明されています。また、農薬関係団体の変遷と現状では、社団法人農薬協会が昭和28年に農薬工業会と日本植物防疫協会に枝分かれしたこと、農協組織で昭和23年に全購連(全農の前身)が新しく組織されたことや、昭和31年に全国農薬商業協同組合連合会(全農薬)が組織されたことや、昭和35年に農薬の計量単位が統一(メートル法の実施)されたことなど興味深い内容が満載されています。



農薬のあゆみ

現在の『農薬要覧』(写真)と比較すると、戦後混乱期を経て農薬業界に関する正確な資料が殆んどなかったことから、農薬製造販売会社に関する調査や解析をして統計資料にしている点が特長になっています。因みに、現在の『農薬要覧』には農家の経済収支が記載されています。(古津)



農薬要覧

小沼良明氏のプロフィール 東京都在住 昭和4年生れ

昭和23年	農林省農政局資材課(農薬・農機具)	平成元年	住友商事(株)退社
昭和26年	植物防疫課	"	東部・西武化成社長継続
昭和39年	住友商事(株)に転職(農薬課)	"	(株)アグロス副社長
昭和54年	東部化成・西部化成両社社長(住商兼任)	平成6年	3社の役員退任
昭和55年	住友商事(株)農薬第一部	平成6年~10年	住友化学(株)アグロ事業部顧問

[目次へ戻る](#)

住化アグログループ紹介

日本エコアグロ 株

ケイ酸質鉱物「NEA ミネラル」(粒) 20Kg ポリ袋入り

ケイ酸 (SiO_2) がイネ科植物の茎葉を丈夫にし、耐倒伏性や耐病性、耐虫性を高めることは良く知られています。最近の研究により、園芸作物においても、ケイ酸施肥の有用性がキュウリ、ピーマン、イチゴ等で確認されています。その作用メカニズムは、植物体が物理的に硬くなることに加え、全身獲得性誘導 (SAR) により病害虫抵抗性が高まるためとされています。

土壌中の粘土鉱物の主成分はケイ酸ですが、その水溶性は非常に低く、植物が必要とするケイ酸を供給するには、有効態ケイ酸の施用が不可欠です。

「NEA ミネラル」は、日本で最も古い地層の一つ「秩父古生層」に分布する石墨片岩等を母岩とする断層粘土群 (俗に頁岩) を細かく粉碎した後、粒にしたものです。この鉱物は数億年にわたる風化を受けており、ケイ酸の有効性が高く、しかもアルカリ分が低く pH7.0 のため、土壌の pH を高めることなくケイ酸分の補給できます (下表参照)。また種々の微量元素を含んでおり、その補給にも役立ちます。NEA ミネラルのケイ酸含量は 67.3% で、比較品 (粒状ケイカル: 32%) の 2 倍以上であるのに対し、アルカリ分は 4% で比較品 (47%) の 1/11 以下です。NEA ミネラルの野菜での施用法の例は、「10a 当たり 80 ~ 100 kg を基肥時全層に混和または追肥時に表面散布する」です。ピーマンの圃場試験の様子を写真 1 に示します。NEA ミネラル区の方が、樹勢が旺盛で斑点病の被害が少ないという結果でした。また、長期栽培トマトの生育終盤における根の状態を写真 2 に示します。「根が健全でがっちりした作物体となり、安定多収が図れた」と農家さんは喜んでおられました。

表 「NEA ミネラル」の含有成分 (%)

ケイ酸 (SiO_2)	鉄 (Fe_2O_3)	カリ (K_2O)	ナトリウム (Na_2O)	苦土 (MgO)	石灰 (CaO)	りん酸 (P_2O_5)	マンガン (MnO)	亜鉛 (Zn)	銅 (Cu)	ほう素 (B_2O_3)	モリブデン (Mo)
67.3	5.72	2.10	2.04	1.73	1.58	0.15	0.12	376 mg/kg	55 mg/kg	36 mg/kg	0.6 mg/kg



写真1 ピーマンでの圃場試験 2005年4月下旬 NEA ミネラル施用、7月6日撮影、兵庫県



写真2 長期栽培トマトの根 2005年10月下旬 NEA ミネラル施用

[目次へ戻る](#)

* 大家さんで行く「大田市場見聞録」

市場でセリにかけられるものはほんのわずか！

早朝4時に起床して、(株)日本エコアグロの大家さんに東京都中央卸売市場大田市場に案内して頂きました。

大田市場を取材したいと思いついたのは、弊社が農業関連資材を販売し、農家さんが使用して農作物を収穫し、それを市場に出荷して初めて収入を得ることができるところの、その市場はどうなっているのか、この眼でしかと確かめてみたいと眠い目を擦りながら訪問しました。



さて、大田市場へ行くには、公共交通機関を利用する場合は、東京モノレールの流通センター駅で下車するのが便利です。平成2年に、神田・荏原および蒲田分場の青果市場と、大森の魚市場を統合してこの場所に移ってきました。敷地面積は40ヘクタールと広大ですが、関係者にお聞きしますと、徐々に手狭になっているそうです。ここは羽田空港や東京湾に近く、高速道路も縦横に走り、まさに陸海空の要所に位置しています。

大田市場の一日の取扱規模は野菜2,250トン、果実910トンです。しかし、取扱数量は昭和62年をピークに年々減少の一途をたどり、平成12年当時と比べて16%減になっています。それは、販売形態の多様化や業態の変化により、市場を通さないスーパー・生協・産直等が増加したことや、少子高齢化及び景気の低迷などが影響したことが主因と考えられています。また、急速な時代の流れの中、中小企業が主体の中卸・小売業者が市場のニーズに対応できなかったことも大きな要因と考えられます。

市場内を歩きながらふと感じたことは、セリに集まっている人が非常に少ないことです。



それもそのはずで、大田市場に来る集荷物の1~2%程度しかセリに掛らないそうです。あとの大半は卸売業者や仲卸業者が産地と直接契約し、デパートや飲食店・小売店・中小のスーパーなどにセリをせずに直接配送していることです。(大田市場の取引量の半分程度しか生産物は集まらない。他は伝票取引のみで生産物は素通り)よって、今までの市場の業態がすっかり変わっていることです。(小生だけが知らなかったのでは?)また、不思議なことに、市場としてセリをしなければなら

ないルールがあるため、例え少ない量でもセリを実施しているというのが実態です。ただ、これも長くは続かないという意見があります。(古津)

* 大家さん...日本エコアグロ(株)でトマトなどのパイヤー的仕事を従事している。

[目次へ戻る](#)

今月のお勧め農薬

稲の倒伏軽減剤ロミカ粒剤

「稔るほど頭をたれる稲穂かな」は稔り豊かな豊作のイメージですが、草丈が伸びすぎると倒伏する危険な姿でもあります。

品種や肥培管理、出穂期以降の高温による節間の伸長、風雨などが原因で、草丈が高いときに倒伏することがあります。倒伏すると収穫作業が困難になるだけでなく、地面に接した稲穂が穂発芽を起こし大きく品質を低下させることがあります。草丈を必要以上に伸ばさない肥培管理がポイントになります。

そこで、倒伏を農薬で軽減することが可能です。その理屈は、イネ自身が生産するジベレリン生合成を阻害し植物細胞の縦方向の伸長を抑制させることにあります。住友化学が開発したロミカ粒剤を処理しますと、有効成分がジベレリン生合成を阻害し稲の節間伸長を抑制させ、倒伏に対する抵抗性が強まります。



ロミカ粒剤 3kg 包装

ロミカ粒剤の特長は

主として上位節間に作用することにより、稈長を短縮し、優れた倒伏軽減効果を示すため、品質の向上、収量の安定ならびに収穫作業の効率化が得られます。

処理時期は、倒伏診断がある程度可能な出穂 25～10 日前に設定されているので、必要に応じて対処ができます。

処理時期の幅は 2 週間以上あり、散布日の選定に余裕が持てます。

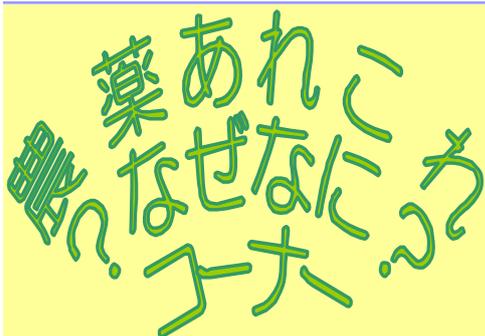
水田の倒伏を起こしやすい部分だけ散布する「スポット処理」が行えるため効率がよく、しかも経済的にお使いいただけます。

上手な使い方は

10 アール当たり 2～3 kg を湛水条件で出穂予定の 25 日～10 日前に均一に散布します。散布後少なくとも 3～4 日は落水やかけ流しはしないで下さい。黒ぼく土壌の水田では効果が十分発揮しないことがあります。なお、本剤は倒伏防止剤ではありません。倒伏防止のための耕種的な諸施策を補完する剤としてご使用ください。

(富樫)

[目次へ戻る](#)



つくり置き of 農薬は 何日まで使えるの？

ご質問

7月に入ったとはいえ、私の住む地方では、まだまだ雨の季節が続いています。

野菜を育てていますが、この雨続きで病気が心配なので、予防的に殺菌剤を散布しようと思います。薬剤を希釈して散布液を作りましたが、雨がやまないで散布を一日待とうかと思っています。実際のところ、このような「農薬を希釈した散布液」はどのくらいの時間置いておいても大丈夫なものなのでしょうか？また、散布した後、雨が降った場合、薬剤の効果が流れ落ちてしまうのではないかと心配です。

お答え

農薬は、水で希釈するなど、使用する前まで(有効期限がラベルに記載されています)は、製品としての品質が保証されています。しかし、水で希釈した場合は、通常すぐに使用することを前提としています。薬剤ごとに分解速度は異なりますし、一口に水と言いましても、酸性かアルカリ性か、硬水か軟水かなど様々な種類の水があります。そのため、散布液が何日後まで使用できるとは一概に言えないのです。

食品の消費期限も、開封しない場合の期限であって、開封後は速やかに消費する必要があるのと同じようなことです。

農薬は、散布される直前に希釈して散布液を作るように心がけてください。あわせて、1日以内に使い切るように、必要以上の量を作らないようにしてください。

また、散布後に薬液が乾かないうちに雨が降れば、薬が流れ落ちてしまいますので、天気の良い日に再度散布することをお勧めします(但し、使用回数は2回となりますので、ご注意ください)。すでに乾いた後の雨であれば、効果がなくなるほど薬が流れ落ちることはほとんどありません。

(佐伯、稲葉)

[目次へ戻る](#)



今月の相談内容から**ハウレンソウのミナミキイロアザミウマに「パダン粒剤4」の使い方**

質問 ハウレンソウのミナミキイロアザミウマに対する「パダン粒剤4」の使用方法について以下のようなご相談がありました。

- ・土壌混和は必要ですか？
- ・発芽に与える影響はありませんか？
- ・高温時の散布等は大丈夫ですか？

回答 ミナミキイロアザミウマによるハウレンソウの被害は、発芽まもなく生長点の近くを加害されるため、正常な展葉ができなくなり奇形葉になり、株が萎縮し大きな被害になります。

展葉後の被害は、吸汁され表皮だけ残った症状が葉裏に現れ、葉表は葉脈に沿ったカスリ状になります。また、夏場の雨よけ栽培は被害が多い傾向にあります。

「パダン粒剤4」は、ハウレンソウのは種時及び発芽揃時に土壌表面散布及び茎葉散布します。薬量は10アール当たり6kgです。また、土壌混和処理の必要は無く、土壌の湿りけで薬剤は溶けて作物に吸収移行します。発芽抑制の心配はありません。

夏場の気温が35℃を越える高温時は作物に高濃度に吸収する恐れがありますので、使用は控えてください。

ミナミキイロアザミウマを対象とした、防除に水に溶かして散布する剤では「パダンSG水溶剤」、「ランネート45DF」、「アグロスリン乳剤」があります。尚、「アグロスリン乳剤」はアブラムシ類・ヨトウムシにも登録があります。アブラムシ類には「スミチオン乳剤」があります。防除の困難なコナダニ類には、は種前、「ネマモール粒剤30」の全面土壌混和が有効です。野菜類の登録があるBT剤は「ゼンターリ顆粒水和剤」、「フローバックDF」、「ダイポール水和剤」などがあり、ヨトウムシに使用ができます。(富樫)

**知って得する防除の仕方****クサネム退治はバサグラン液剤で!!**

水田の雑草の1種として、クサネムが問題となっています。

クサネムは湿潤な畑地にも発生する、葉が合歓の木に似た草丈が1mほどになる1年生雑草です。クサネムの種子は湛水条件では発芽しないため、水田では畦畔沿いや田面の高いところに発生します。夏には黄色の花を咲かせ、結実した黒い種子がイネの収穫と共に米に混ざると除去が困難で、異物混入で米の等級が落ちるだけでなく、種子が混入したまま炊くと、ご飯が黒茶色になります。また、大きくなると茎が硬く木化しますので、収穫作業に支障をきたします。

多くの一発処理除草剤は生育初期のクサネムに対して有効ですが、クサネムが発生する畦畔際や田面の露出したところでは一発処理除草剤の効果も十分に発揮されません。発生・生育してしまったクサネムを防除するためには、バサグラン液剤の散布が効果的です。バサグラン液剤の使用時期は移植後15～55日(但し収穫50日前まで)の本葉展開期で、10アール当り500～750mlを、70～100%の水に希釈して散布します。散布にあたっては落水あるいはごく浅水とし、散布後3日間(浅水処理の場合は5日間)はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流しはしないでください。散布後降雨があっても落水しないでください。処理後2日以内に降雨があると効果が不十分になることがありますので、晴天が持続する時を選んで散布してください。(富樫)

[目次へ戻る](#)

病害虫発生情報

6月～7月初旬に各県から出された病害虫注意報・特殊報から、主要なものをお知らせします。

【果樹全般】 果樹カメムシ類

福島・新潟・栃木・滋賀・香川・宮崎県

今年は越冬密度が高く、早い時期から果樹園へ飛来しています。飛来量は園地により異なりますので、園内でカメムシの発生を見かけたら早めの防除に心がけてください。当社の果樹カメムシ類防除薬剤としては、アグロスリン水和剤・乳剤、アディオン乳剤・フロアブル、ロディー水和剤・乳剤などの合成ピレスロイド剤、ダントツ水溶剤、スミチオン水和剤・乳剤があります。(薬剤により、使用できる作物が異なりますので、ご確認の上でご使用ください。)



【早期水稲】 斑点米カメムシ類

宮崎・鹿児島県 ダントツ剤、スミチオン剤などでの防除を実施してください。粒剤でのカメムシ防除剤として、ダントツ粒剤があります。



【水稲】 いもち病(葉いもち、穂いもち)

埼玉県 予防・治療効果に優れたブラシン剤がお勧めです。いもち病だけではなく、もみを汚染する病害(変色米、穂枯れなど)や、内穎褐変病、もみ枯細菌病、稲こうじ病などにも幅広く効果を発揮し、良質米の生産に貢献します。

【麦類】 赤かび病：北海道

この病原菌は、麦わら、稲わら、稲の刈株などの植物体上で越冬し、2～3月以降に胞子が曇天高湿度時に飛散します。防除適期は、コムギでは開花最盛期とその7日後の2回、オオムギでは穂揃期とその7日後の2回です。降雨のため、防除適期を逃した場合でも天候の合間を見計らって必ず防除してください。



【タバココナジラミ バイオタイプQ】 静岡県

シルバーリーフコナジラミ(バイオタイプB)との形態による区別は、現時点ではできません。従来のコナジラミ防除薬剤に対しては、感受性が低い系統ですが、ベストガード剤の効果は、このQタイプでも優れているという試験報告があります。また、トマトでは粘着くん液剤も効果が期待できます。コナジラミ類の防除は、薬剤による防除だけではなく、施設の開口部に防虫ネット(0.4mm目以下)を張るなどの対策も同時に行うことが必要です。6月末現在26都府県で特殊報が発表されており、九州から南東北まで広まっています。

【なし】 黒星病：千葉県 低温多雨が発生の好適条件となります。今後も降雨が予想されるため、多発が予想されます。発病した幼果や葉は取り除き、園外に持ち出すなど処分を徹底してください。

防除薬剤としては、ベンレート水和剤、アンビルフロアブル、サルバトーレMEなどがあります。

【茶】 チャハマキ、チャノコカクモンハマキ：静岡県 BT剤のエスマルクDF、ゼンターリ顆粒水和剤、合成ピレスロイド剤のアグロスリン水和剤、ロディー乳剤、スミロディー乳剤が両害虫に適用があります。

もち病：福岡県 ダコニール1000、サルバトーレMEなどで防除が可能です。(稲葉)

[目次へ戻る](#)

農薬登録情報

6月21日及び7月5日付けの適用拡大内容です。

薬剤名	変更点	作物	病害虫名	使用量	内容
アディオ ン乳剤	作物追加	食用ゆり	アブラムシ類	3000倍	前日/5回/散布
		葉ごぼう	アブラムシ類	3000倍	14日前/2回/散布
ダントツ 水溶剤	作物追加	みかん	ミカンハモグリガ	20倍 100ml/樹	150日前/1回/ 樹幹散布
	害虫追加	てんさい	カメノコハムシ	100～200倍 1L/㎡-1㎡-ポット 1冊(3L/㎡)	定植前/1回/ 苗床灌注
	希釈倍 数の変 更	てんさい	テンサイ トビハムシ	200倍 5L/㎡-1㎡-ポット 6冊(2.5L/㎡) 100～200倍 1L/㎡-1㎡-ポット 1冊 (3L/㎡)	
ダントツ 箱粒剤	害虫追加	稲(箱育苗)	イネヒメ ハモグリバエ	50g/箱	移植3日前～移植当日/1 回/育苗箱に均一散布
ゲッター 水和剤	作物追加	ズッキーニ	灰色かび病	1500倍	7日前/3回/散布 150～300L/10a
ベンレート 水和剤	作物追加	わけぎ	萎凋病	500倍	植付前/1回/30分 間種球浸漬
		みょうが (花穂)	いもち病	2000倍	3日前/3回/散布但 し花穂発生期にはマルチ フィルム被覆で、散布液 が直接花穂に飛散し ないようにする
		みょうが (茎葉)	いもち病	2000倍	花穂の収穫3日前但 し花穂を収穫しない 場合は開花期終了ま で/3回/散布
		みつば	菌核病	種子重量の 0.5%	は種前/1回/ 種子粉衣
				500倍	は種前/1回/ 24時間種子浸漬
クレマートU 粒剤	作物追加	やまのいも (むかご)	畑地一年生雑草	4kg/10a	植付後萌芽前(雑草発 生前)/全面土壌散布 /1回

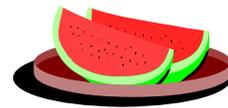
クレマート 乳剤	作物追加	ブロッコリー	畑地一年生 雑草	200ml/10a	定植前(雑草発生前)/ 全面土壌散布/1回
		パセリ		200-400ml/10a	は種後発芽前(雑草発 生前)/全面土壌散布/1回
		うど		200ml/10a	定植後出芽前(根株養成 圃)(雑草発生前)/全面 土壌散布/1回
		ひろしまな		200ml/10a	定植前(雑草発生前)/ 全面土壌散布/1回
		わらび		200-400ml/10a	株養成期(地上部なし) (雑草発生前)/全面土 壌散布/1回

(稲葉・佐伯)

[目次へ戻る](#)

最近の「お・・・美味しい!!」

弊社相談室紅一点!の佐伯がお送りします
最近の「お・・・美味しい!!」
女性の目・主婦の目・はたまた酒呑み??の目(笑)で、
毎月「これぞ!!」というものを紹介します。
どうぞお楽しみに♪♪♪



「夏といえば?・・・やっぱりカレー!」

なんだか食品会社のCMのようなタイトルですが・・・暑くなってくるこの季節、やっぱりカレーが食べたくなるのだから、しょうがないですね(笑)。カレーと言っても、我が家でよく作るのは、普通のカレーでなく「ドライカレー」。

これ、簡単でアレンジもきくので、おススメです。

ドライカレー自体の具は、ひき肉とたまねぎ、にんじん、ピーマンそれにお豆(これが旨い!)

そして今回はまず、ナス・オクラといった夏野菜とゆで卵をトッピング(ラッキョ漬けも必須!)。次の日は、ゆでたジャガイモにドライカレーをかけ、チーズを乗っけてオープン焼きに。最後は、冷凍うどんにドライカレーとめんつゆを混ぜたものをかけていただき!・・・も～最後まで「美味し

い」んだから!!特に最後のうどんアレンジは、カレーうどんみたくって、これがなかなか美味・・・。

こりゃあいいわ。ドライカレー、この季節、登場回数が多くなりそうな予感・・・。

(佐伯)

[目次へ戻る](#)

夏野菜トッピングで栄養満点!

コラム・そば談義

今年の正月明けに、ニュージーランド南島のミルフォードトラックを歩いてきた。

ここは「世界で一番美しい散歩道」と言われぐらい素晴らしいトレッキングコースである。国ごとに人数制限があるが、全長55キロのコースを個々の体力に合わせて4日間歩く。途中、トラブルがあると若い男女のガイドがサポートしてくれる。私は、情けないことに二日目から登山靴がパッキリと笑い、紐とガムテープを幾度となく縛りつけながら何とか完歩した。また、高齢者の方も何人が参加し、峠越えのときはガイドにサポートされ、夜の8時過ぎにロッジに到着した。そのときは、他の参加者から大きな拍手で暖かく迎えられた。

森の中は珍しい動植物が多く、特に鳥は人懐こくて足元まで近寄ってくる。また、宿泊するロッジ(山小屋)はすべてホテル並みの設備で当然シャワー室もあり、食事も毎日豪華だった。私達はオーストラリア人のご夫婦と同じ部屋で宿泊したが、外国人とのふれあいは滅多に経験しないことなので、英会話が出来ればもっと楽しかったのと思う。因みに、その旦那は今年定年を迎えるとのこと、記念に奥さんと参加したとのこと。

さて、最も感心したのは若いガイドさん達だ。特にガイド仲間から「ひろさん」と呼ばれる日本人とニュージーランド人のリーダーは、サービス精神が旺盛で橋の上から川に飛び込んだりして、みんなの笑いを取っていた。それよりも印象に残ったのは、ガイド全員が決して余計なお節介をしないことだ。あくまで、参加者の自主性を尊重し手助けは必要最少限度で、それもさり気なく機転を利かしてくれる。そんな教育を全員が受けているのか、非常に爽やかな感じを受けた。

わが相談室も、お客様のお問合せに答えるのは当然だが、余計な知識を見せびらかせないように気を付けたいと思う。そして、あとで爽やかな感じが残るような受け答えが出来れば最高である。

さて、楽しかった海外旅行を終えて「打ったそば」は、日本でしか味わえない「何だか安心した味」とふと感じたのはなぜだろうか・・・。(古津)

【編集後記】

梅雨もそろそろ終わりなのか、南九州を中心に集中豪雨が続いています。災害に遭われた方々には、お見舞い申し上げますと共に、早い復旧を祈願いたします。

さて、これから夏本番ですが、「うなぎ」などを食べて暑い夏を乗り切って下さい。「うなぎ」と言えば、先般ポジティブリスト制度が施行されたことにより海外からのうなぎの輸入が激減しているとのこと。その為か、女房と買い物でスーパーへ行ったとき、店頭の国内産のうなぎ(浜松など)が以前と比べて多いと思いました。

これは、日本の生産者にとっていいことだと思いますが、庶民の財布にはより厳しくなることも確かと複雑な心境です。



[目次へ戻る](#)